

2.3 研究助成制度について

アンケートは当財団の研究助成制度そのものに関して、記述式の三つの設問で構成されている。

2.3.1 助成を受けられて特に“助かった”“有難かった”と思った事項

設問1のコメント内容を検討したところ8項目に分類できた。集計結果を表2.3.1に示し、そのグラフを図2.3.1に示す。

分類	集計	分類説明
1) 自由資金	29	自分で裁量できる資金である点(迅速に使えて、用途に制限が無く、現金購入ができ、手続きが簡単)
2) 試験設備資金	28	装置・機器・機材などを購入して試験設備が充実した点
3) 研究費全般	23	研究費全般にわたる資金不足が補充できた点
4) 旅費	21	旅費として使用できた点
5) テーマ認知	17	基礎的な研究、新しい研究、実績の少ない研究、オーソドックスな研究を認知してくれた点
6) 謝金	9	謝金として使用できた点
7) 立上げ資金	8	異動直後の新しい研究室の整備・立上げ資金として活用できた点
8) その他	6	-
合計	141	

表 2.3.1

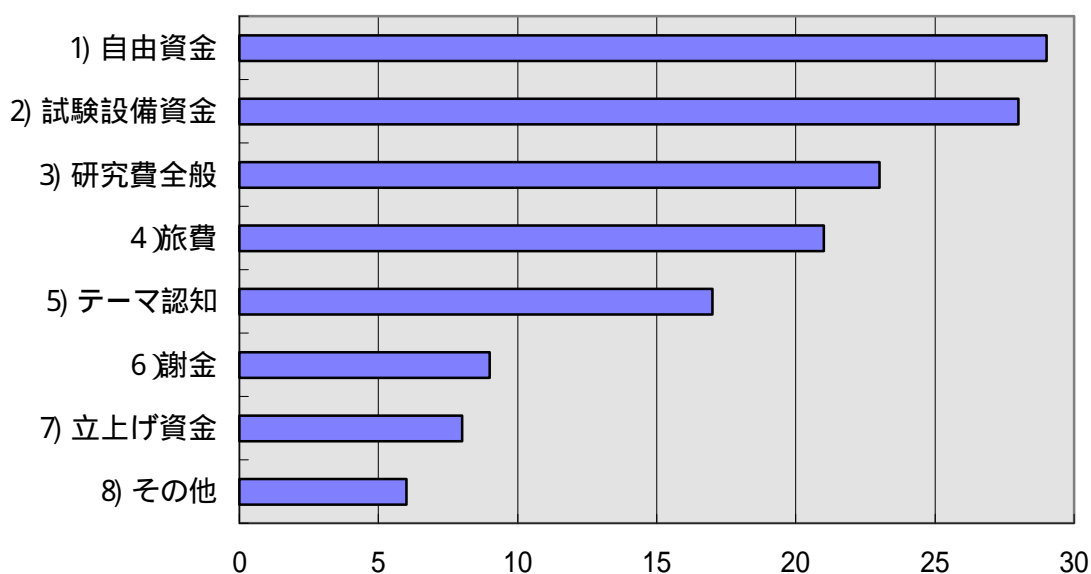


図 2.3.1

2)試験設備資金・3)研究費全般は、助成金の意義からして当然の結果であろう。1)自由資金・4)旅費・6)謝金は、何れも資金の柔軟性を評価するものでであろう。5)テーマ認知は、助成活動の重要な一面を物語っている。即ち、陰に隠れてしまいがちな、目立たないが重要な研究に光をあてる活動に対する評価と言える。

次に 1)自由資金の内訳を表 2.3.2 に示し、グラフを図 2.3.2 に示す。

自由資金の内訳	集計	内訳説明
a) 総合的な良さ	11	用途の自由度・購入の自由度・期間的ゆとりなど総合的な良さ。
b) 購入の自由度	7	小物、消耗品など伝票を使わずに現金購入ができるので、小回りがきき実験がスムーズに運ぶ。又、効果的なタイミングで購入できるので資金効率が良い。
c) 用途の自由度	6	用途に制限が少なく、研究費の自由度が高い。
d) 期間的ゆとり	4	助成決定の後、迅速に交付されて年間全体にわたって余裕をもって使用できる。
e) 天引きが無い	1	大学の事務手数料などの天引きがなく、助成額一杯使用できる。
合計	29	

表 2.3.2

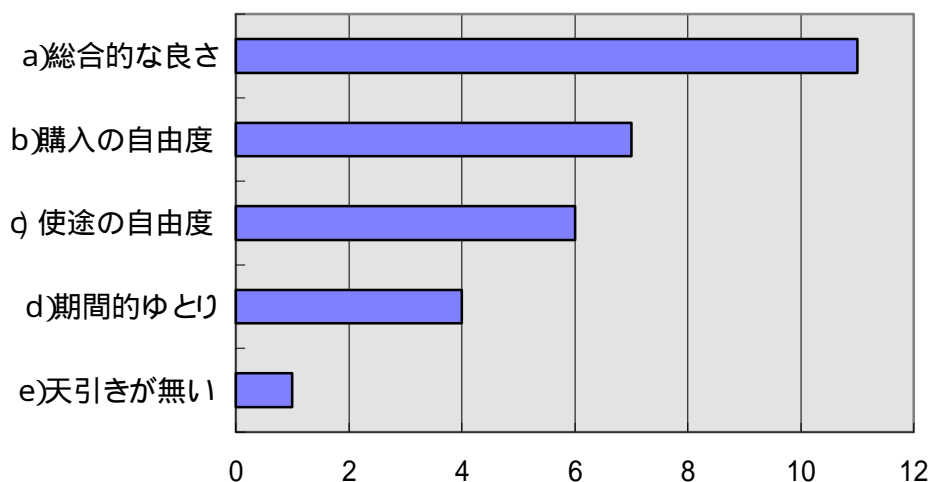


図 2.3.2

ただ単に自由だから良いという訳ではなく、年間全体にわたって余裕をもって使用できる点や、実験がスムーズに運び資金効率が良い点を挙げているのが興味深い。逆に言えば、研究者は効率の良くない扱いにくい資金を短期間で使うことを強いられていると言えなくもない。

2.3.2 文部省科学研究費や校費など他の助成と比較して、 当財団の助成の良かった点

設問2は設問1の延長線にある質問であり、当財団の助成金と科研費や校費など公的な資金との比較に焦点を当てたものである。コメント内容を検討したところ7項目に分類できた。集計結果を表2.3.3に示し、そのグラフを図2.3.3に示す。

分類	集計	分類説明
1) 自由資金	93	自分で裁量できる資金である点(迅速に使えて、用途に制限が無く、現金購入ができ、手続きが簡単)
2) 旅費	11	旅費として使用できた点
3) 書類様式	10	申請書及び報告書の様式が簡潔であり、重複する内容を書くことなく余分な時間をかけないで済む点
4) テーマ認知	8	基礎的な研究、新しい研究、実績の少ない研究、オーソドックスな研究を認知してくれた点
5) 謝金	7	謝金として使用できた点
6) 音響専門	5	助成対象の分野を音響関係に絞っている点
7) その他	22	-
合計	156	

表 2.3.3

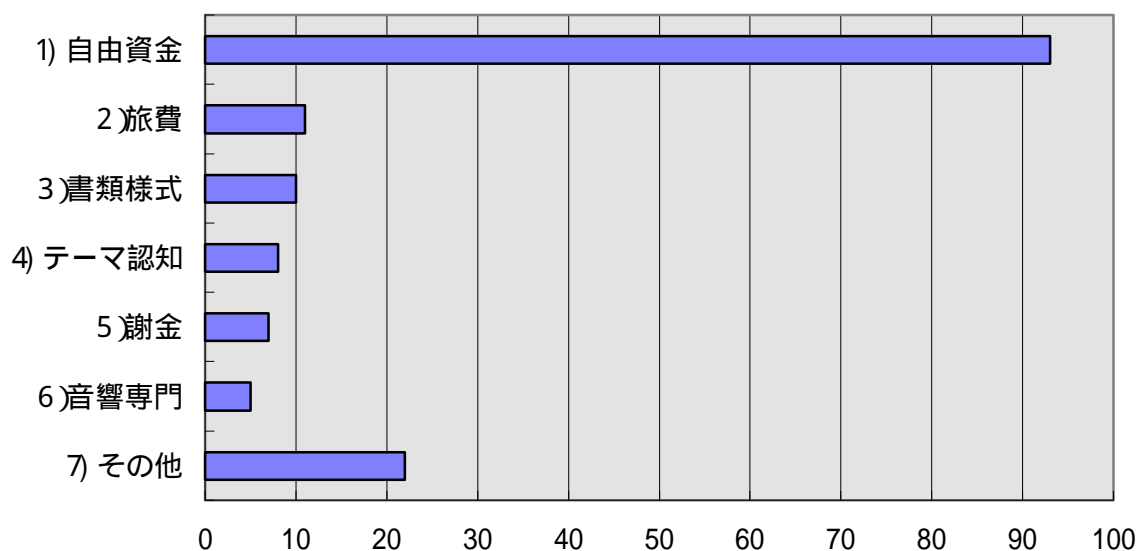


図 2.3.3

設問1で評価された項目の中で特徴的なものが際立ってくる事が予想されたが、表2.3.3はこれを明確に裏付けている。

即ち、設問1では助成金の意義からして当然の項目であった2)試験設備資金・3)研究費全般が消えて、資金の柔軟性を評価する1)自由資金が俄然大きく評価されるとともに2)旅費・4)テーマ認知・5)謝金と続いている。そして、新たに3)書類様式も加わり書式が簡潔である事も評価の対象になっている。

次に断然トップの1)自由資金の内訳を表2.3.4に示し、グラフを図2.3.4に示す。

自由資金の内訳	集計	内訳説明
a) 用途の自由度	45	用途に制限が少なく、研究費の自由度が高い。
b) 購入の自由度	26	小物、消耗品など伝票を使わずに現金購入ができるので、小回りがきき実験がスムーズに運ぶ。又、効果的なタイミングで購入できるので資金効率が良い。
c) 期間的ゆとり	16	助成決定の後、迅速に交付されて年間全体にわたって余裕をもって使用できる。
d) 総合的な良さ	3	用途の自由度・購入の自由度・期間的ゆとりなど総合的な良さ。
e) 天引きが無い	3	大学の事務手数料などの天引きがなく、助成額一杯使用できる。
合計	93	

表 2.3.4

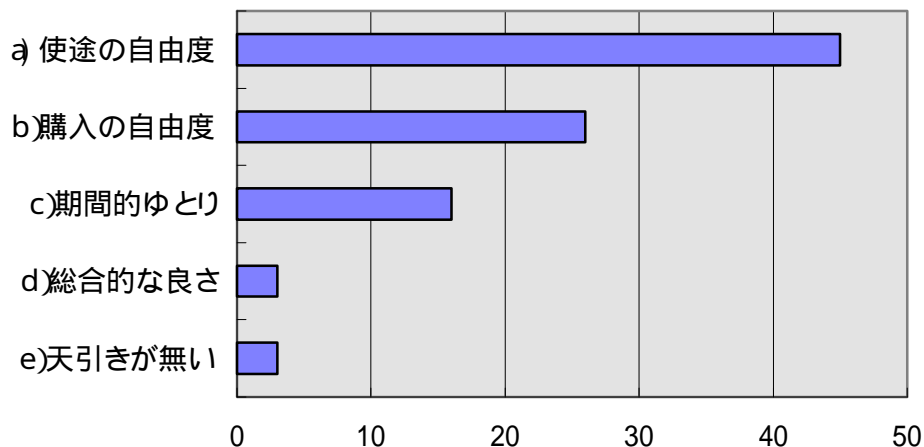


図 2.3.4

a)用途の自由度がb)購入の自由度を上回っているのが興味深い。公的資金は用途の制限が強い傾向にあると思われ、c)期間的ゆとりにも不自由していると推察できる。

2.3.3 当財団の研究助成に関し、今後に期待する事項

設問3のコメント内容を分類したところ4項目に分類できた。集計結果を表2.3.5に示し、そのグラフを図2.3.5に示す。又各項目の細分類を表2.3.6に示し、グラフを図2.3.6に示す。

分類	集計
1) 助成テーマ関連	42
2) 助成金関連	31
3) 助成対象者関連	24
4) 財団への期待	29
合計	126

表 2.3.5

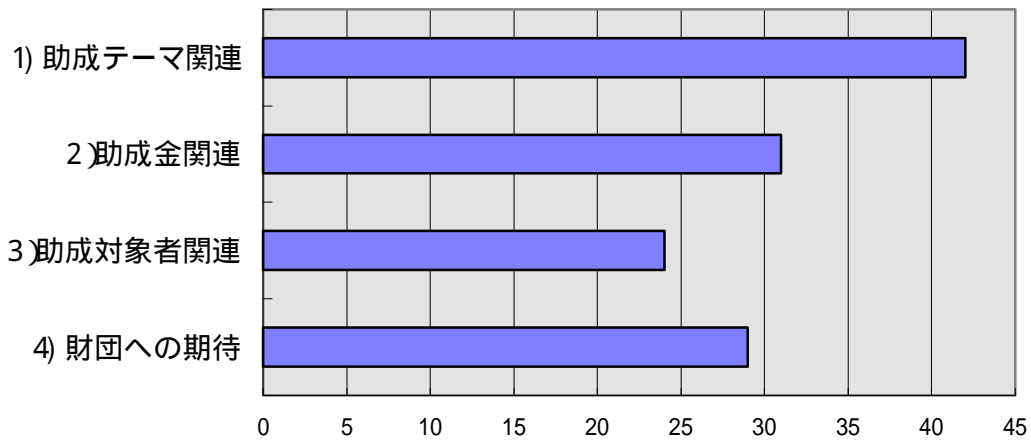


図 2.3.5

分類	細分類	集計	細分類説明
1) 助成テーマ関連	a) 基礎的研究	17	基礎研究、萌芽的研究、地味・地道な研究、独創性・将来性ある研究への助成を期待
	b) 広い分野	6	人文科学系、文化面まで含めた幅広い分野への助成を期待
	c) 海外旅費	5	国際会議での発表、海外留学などの海外旅費の助成を期待
	d) 共同研究	4	大きな研究費を必要とする大型・共同プロジェクト、海外研究者との共同研究への助成を期待
	e) その他	10	画像処理、音楽療法、騒音、音響物理、聴覚生理、機械工学、生物音響、自然音の認識、交流研究会への助成を期待
2) 助成金関連	a) 金額増額	10	助成金額の増額を期待
	b) 複数年度	9	複数年度にわたる助成、継続的な助成を期待
	c) 件数増加	6	年当りの助成件数の増加を期待
	d) 資金の柔軟性	5	助成金の使途に関して条件・制限が少ない制度や、1年計画でも2年間にわたって使える柔軟性の堅持を期待
	e) その他	1	財団から大学へ、委託経理金として直接交付することを期待
3) 助成対象者関連	a) 若手研究者	19	若手研究者、無名で頑張っている研究者、日本人学生・海外留学生への助成を期待
	b) 年輩研究者	2	年齢に関係なくテーマで助成し、科学研究費や奨励研究の年代を過ぎた年輩研究者への助成を期待
	c) その他	3	既に助成対象となった経験者、研究費の少ない地方大学・私立大学、演奏家・楽器製作者への助成を期待
4) 財団への期待	a) 励まし	10	未永く助成活動が継続することを期待
	b) 現状評価	6	助成活動の現状は妥当であり、現在の方針で継続することを期待、更に機関誌「サウンド」や研究助成講演会も評価
	c) 希少価値	6	音・聴覚に関する助成金制度は少なく、当財団のものが唯一であり、特に若手研究者にとっては極めて魅力的で大きな助けになっているので今後も助成活動を期待
	d) 提案	5	助成研究成果の配信、同じ研究テーマを抱えた研究団体の紹介・仲立ち、助成研究の爾後調査と評価、講演会開催と開催者との懇親会、実用化への共同研究が可能な会社の紹介など
	e) 提出書類	2	申請書記載はより簡易化し、最小限の提出書類を期待
合計		126	

表 2.3.6

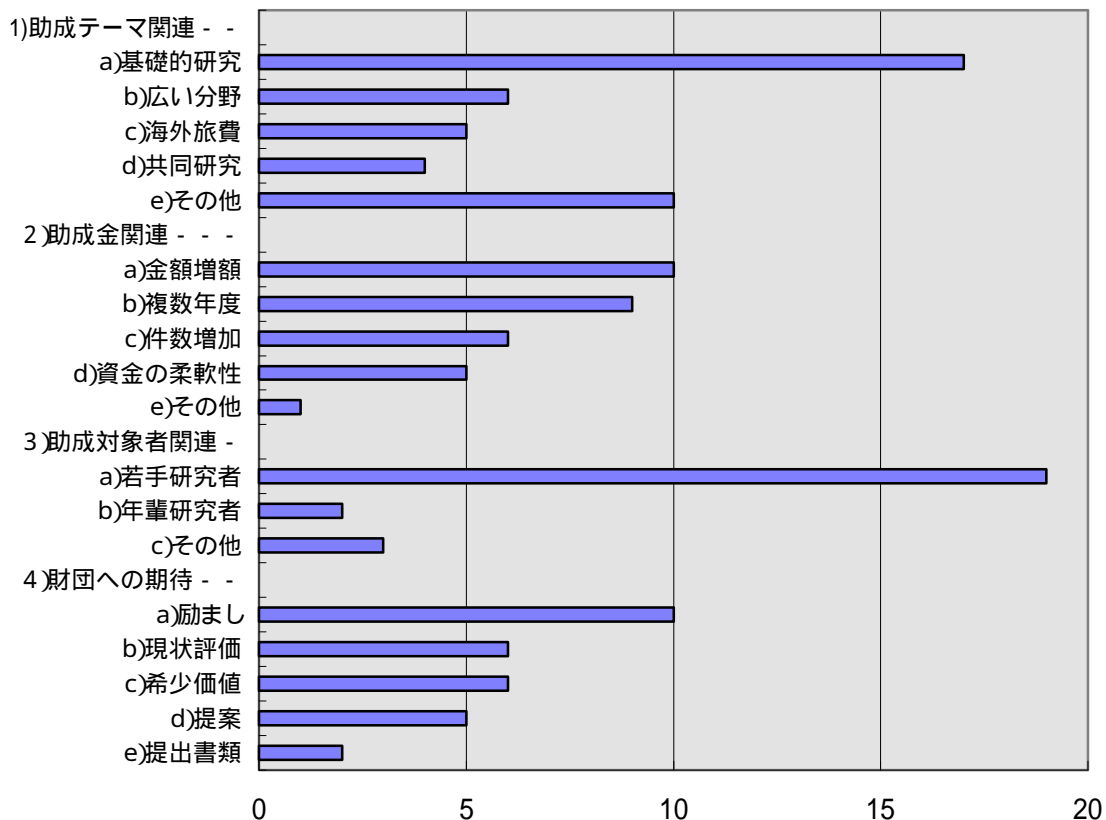


図 2.3.6

1) 助成テーマ関連：

中でも a)基礎的研究への助成期待が他を大きく引き離している。これは、設問 1,2 においてテーマ認知という項目で評価された様に、陰に隠れた独創的な研究に光をあてる任務を一段と伸ばせという期待であろう。

他には具体的に c)海外旅費・d)共同研究への助成が挙がっているのが注目される。

2) 助成金関連：

a)金額増額・c)件数増加は当然として、継続的な助成や1年計画でも2年間にわたって使えるようにとのb)複数年度・d)資金の柔軟性が指摘されているのが注目される。

3) 助成対象者関連：

a)若手研究者への助成期待が突出しているが、これも前記した基礎的研究への助成期待に一脈通じる事であり、無名で頑張っている若手研究者に光をあてよという期待であろう。

4) 財団への期待：

a)励まし・b)現状評価・c)希少価値では、当財団の存在に対して研究者が大きな期待を寄せている事が分かる。d)提案に見られるように研究団体の紹介や産学共同研究の仲立ち、講演会・懇親会の開催等、学界における潤滑剤としての役割も期待されている。